

納物懸子○中 鐮子六疋 略

納物料銀百九十七兩三分四朱○中 鐮子一兩六疋 略

〔和漢三才圖會二十五 容飾具〕

凡用古船釘爲鐮者良爲潮腐鏽再鍛之卽鐵更柔輒

〔類聚名物考調度十〕げつ宏き 木鐮子

〔北條五代記五〕關東昔侍形義異様なる事

諸侍の形義異様に候ひし○中 扱又げつ略宏きと名付て木をもて大きに木ばさみを作り其げつ

宏きにてかしら毛をぬき又鬢の毛のあひをぬきすかし皮肉の見ゆる程にして髪をばびなん

せきにてびんを高くつけあげ給へり○又見慶見聞集

〔和漢三才圖會二十五 容飾具〕○中

按華人不拔鬚鬚而長者以爲美本朝亦古者然矣唯拔鼻毛及白髮爾故和名以鼻毛拔爲本乎近世

面部不好眉外有毛

〔和事始人倫〕月額

月額をる事北條氏執權せし頃より始まるにや○中むかしはげしきとて髪をぬくものを以て

額上を少ぬきしに信長公髪をぬきて益なく頭のいたむ事をうれひて剃刀を用給ひし也其い

にしへは髪ををる事僧尼の外はきはめていましき事にせしとかや

〔嬉遊笑覽容機〕眉を畫くはもとの眉を鐮子にて拔さりて○註畫くにてこはいと後の風俗なり

〔江家次第十七〕東宮御元服

二階南立唐匣○中第二層有櫛四枚刷二鐮刀

〔元祿會我物語〕海なふて生魚絶えぬ都かな